

【参考資料】

●東京型スマート農業プロジェクト

東京農業のような狭い農地でも高収益が得られ、質の高い都民サービスを提供するため、IoT や AI 等の先進技術を活用して「稼ぐ農業」の実現を目指すプロジェクトです。東京都農林総合研究センターでは、企業や大学等の多様なセクターで構成する研究開発プラットフォームを運営し、プラットフォーム会員との共同研究を展開しています。「見えベジ」は令和3年4月22日にプレスリリースを行った「東京型スマート農業の6つの研究開発がスタート」のうち、「直売を主体とした経営管理システムの開発」の成果物です。

●Veggie 株式会社

都内のスタートアップで、直売所情報アプリ「チョコバイ GO！」の開発・運営を行っています。このアプリの特徴は、

- ・消費者から生産者まで幅広く情報を投稿できる
- ・スマホのGPS機能を使って現在地から近い直売所を探索できる
- ・生産者は、スマホ1つで直売所の情報を発信できる など



●株式会社 LAplust

農業用ドローン等のAIを活用した農業支援システムの開発、AIを活用したデータ分析ツールの開発等を行うスタートアップです。共同研究の中で、来客が映りこまない、プライバシーに配慮したウェブカメラを開発しました。



●東京大学大学院農学生命科学研究科

共同研究の中で、直売所の見える化が農業経営に与える影響と、直売所を利用する消費者の購買行動への影響、地場産農産物の利用促進への効果の評価を行っています。



●アンケート調査結果

令和3年5月1日から「見えベジ」の開発及び試験運用にご協力いただいた都内生産者10名からは、売り場管理の省力化や、集客等に活用できるという評価を受けました。

また、令和3年8月11日から9月17日の間に都内消費者の皆様に行ったアンケート調査で「このシステムは直売所の買い物に役立つと思いますか」と質問したところ、約9割の方から「思う」または「やや思う」と高評価を得ました。

「見えベジ」で直売所情報を公開した生産者意見の抜粋

- ・売り場の空きを確認してから補充に行けるようになった。
- ・売れ行きの様子をスマホで確認して、収穫量の調整ができるようになった。
- ・他の直売所を見て売り場を工夫するようになった。
- ・若年層の来客が増えた。
- ・自分だけでなく他の生産者の売り場も見られるので、地域一括で取り組むと住民サービスに直結する。

「見えベジ」の消費者評価結果（回答者48名）

